

静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

静岡県内主要産業の四半期見通し調査 (平成 28 年 7 ~ 9 月期)

県内産業景気は低調のまま横ばい

～20業種中19業種で『横ばい』、1業種で『やや下降』～

消費税率引上げが見送られ景気底割れは回避されたとみられるものの、イギリスのEU離脱決定を機に円高が進み株式相場も急落するなど、金融市場の不安定化もあり、個人消費は回復の兆しが見えない。県内産業景気の回復は、足踏み状態がしばらくは続くと思われる。

なお、業種ごとの7～9月期の業界景気見通しは、「観光・レジャー」を除く19業種が『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が2業種、『普通』が7業種、『低調』が10業種、『不調』が1業種の見通し。

業種	業界景気	
	現況 (4～6月)	見通し (7～9月)
製茶	● → ●	● → ●
食品・飲料	● → ●	● → ●
家庭紙	● → ●	● → ●
産業用紙	● → ●	● → ●
工作機械	● → ●	● → ●
民生用電器部品	● → ●	● → ●
自動車部品	● → ●	● → ●
二輪車部品	☂ → ☂	☂ → ☂
建設	● → ●	● → ●
住宅	● → ●	● → ●
大型小売店	● → ●	● → ●
食品スーパー	● → ●	● → ●
自動車販売	● → ●	● → ●
家電量販店	● → ●	● → ●
運輸・倉庫	● → ●	● → ●
情報サービス	○ → ○	○ → ○
外食	● → ●	● → ●
観光・レジャー	● → ●	● → ●
リース	● → ●	● → ●
人材派遣	○ → ○	○ → ○

担当：主席研究員 望月 毅
研究員 岩間 晴美

県内産業景気は低調のまま横ばい

消費税率引上げが見送られ景気底割れは回避されたとみられるものの、イギリスのEU離脱決定を機に一時1ドル=100円を切るまで円高が進み株式相場も急落するなど、金融市場の不安定化もあり、個人消費は回復の兆しが見えない。年初から一段と進んだ円高は、県内製造業にとってマイナスに影響しており、とくに自動車部品・工作機械・民生用電器部品などで業績回復の足かせとなっている。参議院選挙後の補正予算で経済政策の充実が見込まれるものの、先行き不透明感を払しょくするまでの力強さがあるかは未知数で、県内産業景気の回復は、足踏み状態がしばらくは続くと思われる。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現在（平成28年4～6月期）の業況は、『好調』業種はなく、『順調』が「情報サービス」、「人材派遣」の2業種、『普通』が「食品・飲料」、「家庭紙」、「工作機械」、「民生用電器部品」、「建設」、「外食」、「観光・レジャー」の7業種、『低調』が「自動車部品」、「住宅」など10業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回（平成28年3月）調査との比較では、全20業種とも現況に変化はなかった。

(2) 業界景気の見通しについて

平成28年7～9月期の景気見通しは、主要20業種のうち、『横ばい』が19業種、『やや下降』が1業種と、ほぼ横ばい見通しとなった。

『横ばい』19業種のうち、『順調』が続くと見られるのが、首都圏からのソフト開発案件が増えると予想される「情報サービス」と、人手不足感が高まり、派遣人材の引き合いが強い「人材派遣」の2業種。『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、節約・内食志向で順調なツナ缶を中心に需要が底堅い「食品・飲料」、不需要期ながらトイレ紙、ティッシュの生産量の増加が見込まれる「家庭紙」、前年を下回るものの水準自体は高い「工作機械」、エアコンなどの高機能品の需要が高い「民生用電器部品」、公共工事の前倒し発注が見込まれる「建設」、客単価の上昇が一巡している「外食」の6業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、仏事や贈答需要の回復が鈍い「製茶」、包装簡素化の影響により白板紙の需要減少が続く「産業用紙」、燃費不正問題の影響などで軽自動車の販売が低迷している「自動車部品」、「自動車販売」、消費税率引上げが見送られるも需要創出につながっていない「住宅」、消費者の低価格志向が続き客単価が伸びない「大型小売店」、「食品スーパー」、「家電量販店」、輸送用機械器具の落ち込みが予想される「運輸・倉庫」、設備投資に慎重な姿勢をとる企業が増え案件数が伸び悩む「リース」の10業種。『不調』のまま『横ばい』を見込むのは、中・大型車の輸出への円高の影響が懸念される「二輪車部品」1業種。

『やや下降』と見込まれるのは、シルバーウイークの休日数が減り、「ふるさと割」が行われななど、前年のプラス要素が剥落する「観光・レジャー」1業種で、『普通』から『低調』に1ランク下降の見通し。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年次		平成25年		平成26年				平成27年				平成28年	
四半期		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ (今回調査)
対象月(○は調査月)		7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	順調 ○	2	4	5	1	1	2	1	2	3	2	2	2
	普通 ◐	3	6	7	5	5	4	4	3	5	7	7	7
	低調 ☁	14	9	6	13	13	13	13	13	11	10	10	10
	不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.30	2.65	2.95	2.30	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50	2.50	2.50
	好調：5 順調：4 普通：3 低調：2 不調：1												
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	2	5	0	1	2	0	2	2	0	0	1	0
	横ばい →	17	15	12	19	18	20	18	18	20	20	19	19
	やや下降 ↘	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	下降 ↘	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（業種数）												

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（6月調査であれば4～6月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（6月調査であれば7～9月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…平成28年6月初旬
 回答企業…県内主要20業種（154社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成 28 年 7 ～ 9 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (4～6月)	見通し (7～9月)	生産量 (前4～6月期 対比伸び率)	売上高 (前4～6月期 対比伸び率)	生産量 (前年 同期比)	売上高 (前年 同期比)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向 (前4～6月期対比)	製 品 価 格 の 動 向 (前4～6月期対比)	受 注 残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	—
食品・飲料	○ → ○	○	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
工作機械	○ → ○	○	→	→	↘	↘	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.5
民生用電器部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.5～3.0
自動車部品	☁ → ☁	☁	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～3.0
二輪車部品	☂ → ☂	☂	→	→	↘	↘	◇	均 衡	適 正	→	→	0.5～3.0
建設	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	均 衡	適 正	→	→	3.0～9.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均 衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	需要超過	—	→	→	—
外食	○ → ○	○	—	↗	—	→	—	均 衡	—	→	→	—
観光・レジャー	○ → ○	○	—	↗	—	↘	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
〈特別調査 平成28年7～12月期 半期見通し〉												
家具	☁ → ☁	☁	↘	↘	↘	↘	◇	供給超過	過 多	→	→	0.5～1.0
楽器	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	—

表の見方と注意

業界景気 現況 見通し	業界景気 見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操 業 度	需給バランス	製品在庫水準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過 少
普 通 ○	横 ば い →	横 ば い → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ◐	供給超過	過 多
不 調 ☂	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(1～6月期の現状と7～12月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。半期調査対象企業…2業種の企業6社。

主要業種の現況と7～9月期の景況見通し

業種	業界天気	水出し緑茶で夏季家庭需要の掘り起こしを
製 茶	☁ → ☁	<p>(現況)・4～6月の製茶問屋の売上高は前年程度となった模様。一番茶は、生産をとりやめた茶園もあり、生産量は前年をやや下回った模様。平均価格は前年をやや上回ったが、製茶問屋は選択買いの傾向を強め、品質の良否により二極化した。</p> <p>(見通し)・7～9月の製茶問屋の売上は、前年並みで推移する見込み。仏事や贈答需要の回復が鈍い中、徐々に定着してきた水出し緑茶のさらなる拡販に努め、夏季の家庭需要を掘り起こしたい。一方で、ペットボトルへの注力や海外市場の開拓などを進める製茶問屋もあり、業界の活性化に寄与しよう。</p>

業種	業界天気	節約・内食志向により缶詰を中心に堅調に推移
食 品 ・ 飲 料	◎ → ◎	<p>(現況)・4～6月の県内の食料缶生産量は、前年を+5～10%上回った模様。主力のツナ缶は、消費者の節約・内食志向から需要が底堅く、前年をやや上回った。飲料缶は、機能性表示食品対応商品の投入などで、低水準だった前年水準を上回った。</p> <p>(見通し)・7～9月の県内の食料缶生産量は、前年をやや上回る見通し。主力のツナ缶は、節約・内食志向に加え、新商品の投入により前年実績を上回る見込み。レトルトパウチも単身世帯を中心に増加が期待される。飲料缶は、天候不順で低迷した前年を上回るとみられる。</p>

業種	業界天気	トイレ紙価格は前年水準確保も、上値は重い展開
家 庭 紙	◎ → ◎	<p>(現況)・家庭紙の生産量は、前年をやや上回った。再生トイレ紙は、熊本地震の影響で家庭にトイレ紙を備蓄する動きが広まり、前年をやや上回った。ティッシュも前年を上回ったが、輸入物との競合から価格は伸び悩んだ。</p> <p>(見通し)・家庭紙の生産量は、ほぼ前年並みとなる見通し。再生トイレ紙は、前年をやや上回る見込み。価格は前年水準を確保できそうだが、大手パルプ物が軟調で上値は重い。ティッシュ生産量も前年をやや上回る見通しだが、円高で輸入品の侵攻が懸念される。</p>

業種	業界天気	段ボール原紙は飲料向けなどが伸長の見込み
産 業 用 紙	☁ → ☁	<p>(現況)・産業用紙の生産量は、前年並みとなった。段ボール原紙は、主力の食料品向けをはじめ、電気器具・機械器具用などで好調を維持し、前年をやや上回った。一方、白板紙の生産は、前年をやや下回った。</p> <p>(見通し)・産業用紙の生産量は、前年並みとなる見通し。段ボール原紙は、前年をやや上回る見通し。西日本を中心に暑い夏になるとみられ、飲料向けなどの需要が伸びそう。加えて、ガラス・雑貨用や通販用など、他の分野でも好調を維持する見通し。白板紙は、包装簡素化の影響で需要は低調に推移。</p>

◎好調 ○順調 ◎普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	受注額は前年を下回るも、前年水準高く底割れ懸念薄い
工作機械	○ → ●	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲20%程度下回って推移した模様。外需はアジア向け、特に中国向けが不振で前年を▲30%近く下回ったとみられる。また、内需も、前年を▲10%程度下回って推移した。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年比▲10%程度下回るとみられる。外需は、アジアで力強さがない上に、イギリスのEU脱退及びそれに伴う円高がマイナスに働く見込み。内需も、設備投資マインドの慎重姿勢など好材料が少ない。ただし、前年水準が高く、底割れ懸念は薄い。

業種	業界天気	猛暑予想で、エアコンの出荷額は前年を上回る見通し
民生用電器部品	○ → ●	(現況)・家庭用エアコンの出荷台数は、来年に予定されていた消費税率引上げを見据えた増産により、前年を若干上回って推移した。また、冷蔵庫は、単月ではマイナスとなる月もあったが、大型タイプが人気で、通期では前年を上回った。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、猛暑予想が追い風となり、前年実績を上回る見通し。業務用もビルなどの建設需要から堅調に推移する見込み。冷蔵庫は高額品を中心に、また、洗濯機も高機能製品が人気なことから、全体として部品メーカーの受注量は前年を上回る見込み。

業種	業界天気	遅れを挽回すべく、国内生産は前年をやや上回る見通し
自動車部品	● → ●	(現況)・国内の自動車生産台数は、前年を▲5%程度下回った模様。4月の熊本地震でサプライチェーンが寸断されたほか、燃費不正問題などにより軽自動車が増減した。部品メーカーの出荷高も、前年を下回って推移したとみられる。 (見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや上回って推移する見通し。トヨタでは、上期の減産分について7月以降、生産の遅れを挽回する計画を立てているほか、三菱自動車も軽自動車生産を再開。部品メーカーの受注量も、前年をやや上回って推移する見込み。

業種	業界天気	熊本地震で生産拠点が被災、国内生産は前年をやや下回る
二輪車部品	☂ → ☂	(現況)・4～6月の全国完成車生産台数は、前年比▲1割弱減少した模様。4月に発生した熊本地震により、ホンダの国内生産拠点である熊本製作所が被災した。県内部品メーカーの生産量は、前年をやや下回って推移した模様。 (見通し)・7～9月の全国完成車生産台数は、前年を下回って推移する見通し。ホンダの熊本製作所では、一部で生産を開始しているものの完全復旧は8月半ばとなる見込み。また、イギリスのEU離脱で、欧州向け輸出への影響が懸念される。県内部品メーカーの生産量も、前年を下回って推移する見込み。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ● 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	公共は前倒し発注で契約が伸び、民間は前年並みを見込む
建設	○	(現況)・公共工事契約額は、前年を下回った模様。県、市町の発注が鈍く、契約が伸びなかった。民間の工事費予定額についても、前年を下回った模様。県内は大型案件に乏しく、一部の県内大手ゼネコンは、関東圏などで受注を増やしている。
	→	(見通し)・公共工事契約額は、前年を上回る見通し。県は、上半期の公共事業発注目標を年間発注の8割としており、7～9月にかけて契約額が増加するとみられる。民間の工事費予定額は、教育施設や介護施設などの着工が予定されており、前年並みになるとみられる。

業種	業界天気	駆け込み需要は少なかったが、低金利で底堅い需要
住宅	☁	(現況)・持家の新設着工戸数は、前年をやや下回った模様。消費増税延期発表までの駆け込み需要が、ハウスメーカーの見込みよりも少なかった。貸家は、中部地区を中心に伸びており、前年を上回るとみられる。
	→	(見通し)・持家の新設着工戸数は、前年並みとなる見通し。消費増税は延期となったが、金利は引き続き最低水準にあることから、需要は底堅く推移する見込み。震災の影響から、耐震性を売りにした住宅に対する需要が増えそう。貸家は、相続税対策の関心が依然として高く、前年水準は確保できる見通し。

業種	業界天気	消費マインド悪化を背景に、前年をやや下回る見通し
大型小売店	☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、主力の衣料品のほか、傘や靴などの日用品も振るわず、前年を下回った。一方、スーパーは、主力の飲食料品の販売が下支えし、前年水準を確保した。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや割り込んで推移する見通し。百貨店は、6月下旬の株式市場の乱高下で、富裕層の消費マインド悪化が懸念され、売上も伸び悩む見込み。スーパーも、中間層の低価格志向が強まる中、価格競争が厳しさを増すとみられ、収益環境の悪化が懸念される。

業種	業界天気	猛暑予想で、氷菓や清涼飲料水などの販売増加に期待
食品スーパー	☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年並みで推移した模様。相場高が続く牛肉や、カツオの不漁が響いた水産物の販売が前年を下回ったものの、5月下旬から気温の高い日が続き、氷菓や冷たい麺類などの販売が伸長した。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。梅雨明け以降、猛暑が予想されていることから、氷菓や清涼飲料水、ビールなどの販売増加が期待される。ただし、消費者の節約志向は強まっており、相場高が続く肉類などの買い控えが懸念される。

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	登録車は堅調、軽自動車は燃費不正問題もあり苦戦が続く
自動車販売	☁ → ☁	<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年比▲3%下回った。登録車は新型車を中心に受注が伸びた。軽自動車は、燃費データの不正問題の影響もあり、販売台数は前年比▲16%の減少となった。特に三菱、日産は減少幅が大きかった。</p> <p>(見通し)・登録車の乗用車販売台数は、前年並みとなる見通し。引き続きハイブリッド車の販売が堅調に推移するとみられる。軽自動車は、燃費不正問題で販売を停止していた車種の販売が7月より再開したが、しばらくは購入を手控える顧客があるとみられ、販売台数は前年を下回る見通し。</p>

業種	業界天気	五輪特需による薄型テレビの販売増で、前年を上回る見通し
家電量販店	☁ → ☁	<p>(現況)・薄型テレビの販売額は、大型の4Kテレビの販売が底支えし、前年並みを確保した。生活家電では、大容量タイプの洗濯機が人気を集め、前年を+10%前後上回った。これに伴い、家電販売額全体では前年をやや上回った模様。</p> <p>(見通し)・薄型テレビの販売額は、8月開催のリオデジャネイロ五輪による需要の押し上げ効果が見込まれ、前年を上回る見通し。また、猛暑が予想されていることから、エアコンや扇風機の販売増加が期待される。これにより、家電全体の販売額は、前年をやや上回って推移するとみられる。</p>

業種	業界天気	トラック輸送量は前年並み、倉庫も前年水準を確保
運輸・倉庫	☁ → ☁	<p>(現況)・トラック輸送量は、輸送機械や建設関連、食料品などが伸び悩み、前年をやや下回った模様。普通倉庫の入出庫高は、鉄鋼や電気機械などの荷動きが堅調で、前年水準は確保したとみられる。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は、飲料や家電製品の荷動きに期待がかかるが、輸送機械で落ち込みが予想され、全体では前年並みの水準となる見込み。普通倉庫の入出庫高については、天候にもよるが、エアコンなど電気機械器具の荷動きが堅調に推移するとみられ、前年水準は確保できる見通し。</p>

業種	業界天気	首都圏からの案件多く、前年水準を上回る模様
情報サービス	○ → ○	<p>(現況)・4～6月の全国の売上高は、ソフト開発が好調だったことなどから前年をやや上回った模様。県内も、首都圏からの受託案件が相次いだほか、小売業や製造業の案件が増加し、前年をやや上回ったとみられる。</p> <p>(見通し)・7～9月の全国の売上高は、引き続きソフト開発が堅調に推移すると見込まれることから、前年実績をやや上回る見通し。県内も、首都圏から多くの案件を見込んでおり、前年水準を上回る模様。ただし、雇用面では、SEが不足しており、人材確保に苦戦しそう。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☁不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期


業種	業界天気	消費増税は見送られたが、儉約志向の解消は難しそう
外食	○	(現況)・主要外食店の売上高は、客単価が伸びて、前年をやや上回る模様。大手ファストフード店の回復がけん引していて、多くの店舗は横ばいで推移。客数の伸びが芳しくなく、客単価の上昇も一巡してきている。
	→	(見通し)・主要外食店の売上高は、前年並みにとどまる見通し。リオ五輪期間中のマイナスの影響は限定的とみられるが、9月の連休(シルバーウィーク)の曜日配列が悪く、微増基調を打ち消してしまう模様。消費増税は見送られたが、消費者の儉約志向は解消が難しいとみられる。


業種	業界天気	前年のプラス要素がなくなり、前年比マイナス
観光・レジャー	○	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年並みで推移した模様。熊本地震による旅行自粛や、箱根地区の状況改善など、マイナス要素は複数あったが、三島スカイウォークの開業効果がプラスに作用し、GWも落ち込みはなかった。
	→	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回る見通し。三島スカイウォークの開業効果はあるものの、韮山反射炉の世界遺産登録効果が一巡、シルバーウィークの休日が減少、今年は「ふるさと割」が行われないなど、前年のプラス要素がなくなるため、好調だった前年を下回る模様。

業種	業界天気	先行き不透明感から前年割れの見通し
リース	●	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年実績をやや上回って推移した模様。新興国の成長鈍化を受けて海外への投資は大きく減少していることに加えて、国内も投資マインドの低さから更新需要が中心で、伸びは限定的だった。
	→	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや下回る見込み。大企業は更新需要を中心に底堅く推移する見通し。一方、中小企業は業績の回復が進まず、動きは鈍いとみられる。先行き不透明感から案件は減少傾向にあり、設備投資に慎重な姿勢をとる企業が増えるとみられ、前年割れとなる見通し。

業種	業界天気	供給サイドの人材不足が解消せず、伸びは限定的
人材派遣	○	(現況)・4～6月の県内の実働派遣労働者数は、前年を+3～5%程度上回った模様。営業・販売業務や事務系業務、製造業務でも需要は高かったものの、供給側の人手不足が深刻化しており大きくは伸びなかったとみられる。
	→	(見通し)・7～9月の県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。人手不足感の高まりから、今後も多くの分野で高い需要が見込まれるが、供給サイドの人材不足が続き、需給は逼迫した状況が続くとみられ、伸びは限定的となる見込み。
	○	

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	国内の住宅着工戸数は増加見込みも、家具への波及は限定的
家具(半期ベース)		<p>(現況)・県内の木製家具出荷額は、前年実績を下回った。国内の新設住宅着工戸数は首都圏を中心に前年比増加したものの、所得の伸び悩みで家具需要は好転せず、荷動きも低迷した。一方、昨年続いた原材料価格の上昇が一服し、収益面は改善された模様。</p> <p>(見通し)・県内の木製家具出荷額は、前年を下回る見通し。国内の新設住宅着工戸数は引き続き増加が予想されるが、消費マインドの改善が期待できない中、家具需要への波及は限定的となる模様。また、円高の進展で割安な輸入家具が増加するとみられ、業界を取り巻く環境は一段と厳しさが増す見込み。</p>

業種	業界天気	北米で電子楽器など伸長も、円換算では販売額が減少
楽器(半期ベース)		<p>(現況)・国内の楽器販売額は、ギター類が前年を20%程度上回ったが、前年伸長した電子オルガンの反動減で前年並み。海外は、電気ギターなどは堅調であったが、管楽器などが伸び悩み、円高で円換算額も減少して、前年をやや下回った。</p> <p>(見通し)・国内の楽器販売額は、消費を牽引してきたギター類も前年水準の維持が精一杯とみられ、全体でも前年並みの見込み。海外は、北米向けは電子楽器を中心に改善傾向で、中国向けもピアノが堅調だが、円高による円換算額の減少を補うには不十分とみられ、前年をやや下回る見通し。</p>

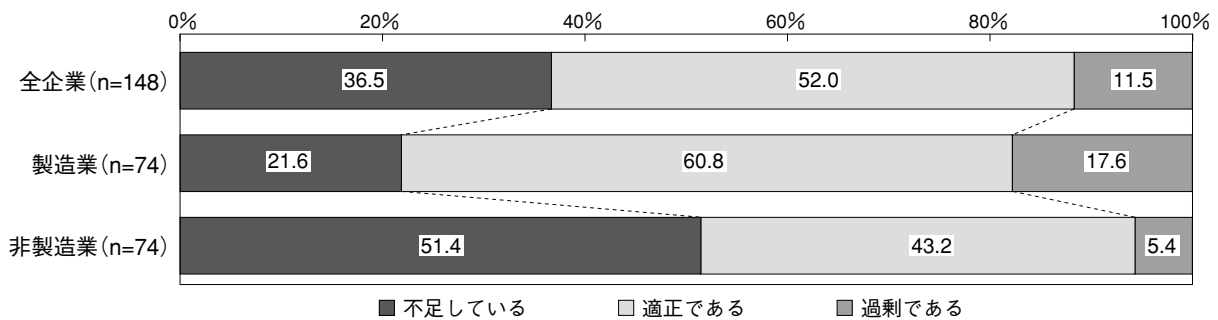
○好調 ○順調 ⊙普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が1～6月期、下段が7～12月期

企業の36.5%で人手不足、前年より「不足」「過剰」ともに増加

県内企業に、現在の従業員の過不足状況を聞いたところ、「不足している」と答えた企業は36.5%（前年同期調査比+2.2ポイント）、「適正である」は52.0%（同▲5.7ポイント）、「過剰である」は11.5%（同+3.5ポイント）となり、「適正」と答えた企業が減少する一方で、「不足」「過剰」と答えた企業は増加している。

業種別にみると、製造業では「不足している」企業の割合は21.6%（前年同期調査比▲4.0ポイント）に対し、「過剰である」企業は17.6%（同+4.8ポイント）と、過不足感にバラつきが生じている。非製造業では「不足している」企業は製造業の2.5倍に上る51.4%（同+5.6ポイント）と引き続き人手不足感が強い。個別業種では、ホテル・旅館業（83.3%）、建設業（78.6%）、運輸・通信業（50.0%）で「不足している」とした企業が多い。一方、製造業の中で特に輸送用機械器具において、「過剰である」と答えた企業は42.1%（同+12.1ポイント）と過剰感が強い。

図表 現在の従業員の過不足状況



調査要領：調査時点平成28年6月上旬、調査対象企業数374社、回答社数148社、有効回答率39.6%